トラクタ用えだまめ収穫機
ミツワが発売
莢の傷を抑え、分別
大規模圃場に適した高性能

㈱ミツワ（新潟県燕市熊森1345）はかねてより、研究・開発をしていたトラクタ用えだまめ収穫機「GTH―1」を完成、本格的な発売を開始する。同機は、1時間当たり5㌃の枝豆を収穫する高性能機。莢の傷を抑える特殊扱き歯を採用し、根元から高速で収穫する。ブロワーと収穫コンテナ内に葉屑・枝混入を最小限に抑える。同社では大規模圃場に適したハイパワー収穫機として積極拡販を進める。

今回発表した、えだまめ収穫機「GTH―1」は、手持ちのトラクタ（適応クラス重量1500㌔以上）にワンタッチで脱着可能。使い慣れたトラクタを使用することで、走破性・機動性・快適性が保たれ、確実で素早く収穫作業が行える。

株を引き抜かず直接莢だけを収穫する立毛脱莢方式（収穫幅は600㍉、1畝1～2条植えに対応）のため、極めて効率的に作業が行え、1時間当たり約5㌃の枝豆が収穫・調製できる。

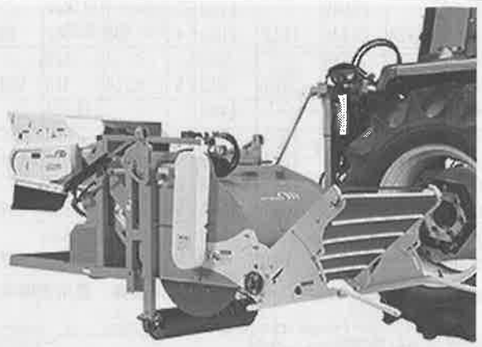
ゴムとタインで組み合わせた特殊扱き歯により、莢の傷を最小限に抑えながら収穫する。特殊扱き歯の形状・本数・配列の追求により、ロスのない脱莢作業が行える。

ブロワーとローラーを組み合わせた選別機能により、葉屑と莢を分別し、選別ローラーを設置することで、収穫コンテナ内への葉屑・枝混入を最小限に抑える。

同機の主な特徴と仕様は次の通り。

〔特徴〕①デバイダーと導入コンベアにより、株を整列させ脱莢部へスムーズに導入させ、ムダのない脱莢が行える②圃場条件により、畝位置に合うよう油圧シリンダーによる微調整（0～300㍉）が可能③扱き胴回転・停止・調整・フレーム展開・格納の機能をスイッチボックスで操作できる④油圧シリンダーで作業機をコンパクトに折りたたむことができ、トラクタごとトラックに積み込み、移動できる―など。

〔仕様〕▽適応トラクタ＝重量1500㌔以上▽動力源＝トラクタ後部PTO▽機体寸法＝作業時・全長2650×全幅2500×高さ1180㍉、格納時・全長1550×全幅1750×高さ1650㍉▽重量＝500㌔▽脱穀部＝収穫幅600㍉、駆動油圧モータ▽選別部＝葉選別ブロワー、枝選別ローラーコンベア▽移送方式＝コンベア式▽能率＝1時間当たり約5㌃▽標準圃場条件＝条数1～2条、畝幅700㍉以下、畝間800～1300㍉、畝高200㍉以下


トラクタ装着式のえだまめ収穫機「GTH―1」

佐藤農機鋳造
柑橘水洗装置に新モデル
晩柑などの洗浄に

佐藤農機鋳造㈱（佐藤明三社長）農機事業所（広島県福山市港町2の3の21）は、晩柑などの洗浄に適した「柑橘水洗装置」の新モデル「CW315」を本格発売した。新モデルは生果の水滴を除去する吸水ローラーを採用。シャワーで水洗いしたあと、2本の専用吸水スポンジローラーで水滴を取り除きながら、ナイロンブラシと2台の送風機で生果の水を切り乾燥する仕組みだ。

吸水ローラーと送風機による同時乾燥で、旧モデルでは送風機の電力が1台250㍗要していたのに対し新モデルは150㍗となり、機体のコンパクト化も実現。スピード調整も可能になった。

ブラシの回転数はブラシレスモーターのドライバー駆動採用により、ワンタッチで自由に変更できる。また低騒音、省エネ設計のため快適に作業できる。

柑橘水洗装置は同社のドラム式自動選果機「ASF306」や「同396」系と連結でき、機体のおおよその大きさは長さ205㌢、幅62㌢、高さ128～148㌢で重さ180㌔。単相100㍃電源を使用する。高さは無段階で調整可能なため好みの高さで作業できる。

石井新社長

石井製作所で社長人事
石井智久氏が就任

㈱石井製作所（山形県酒田市京田4の1の13）は故石井正三氏の後任として、代表取締役専務の石井智久（ともき）氏が代表取締役社長に就任したことを明らかにした。同氏は、平成63年8月1日生まれの29歳。（1面にポラロイド）

主な略歴＝平成23年3月長岡技術科学大学環境システム工学科卒業、同年4月同科修士課程入学、25年3月同課程修了、同年4月同社入社。

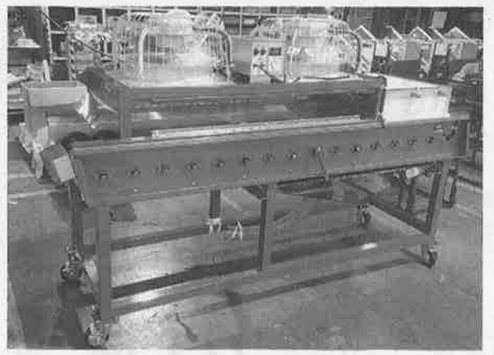
金子社長

今期計画達成へ
中期5カ年計画スタート
デリカ

㈱デリカ（金子孝彦社長・長野県松本市大字和田5511の11）の今10月期の業績は、売上高、損益面とも「当初計画をほぼ達成できる」見通しとなった。引き続き畜産クラスター事業による機械導入が堅調だったのに加え、3点リンクが8月以降上向き、とくに海外において「価格で攻勢をかける他国のメーカーよりも品質面で高い評価を得た」（金子社長）という。

また、同社長は、来期（平成30年10月期）から中期5カ年計画がスタートすることを明らかにしたうえで、方向性を打ち出そうと「この策定には若手社員を中心に自発的に取り組んでもらっている。新しい農業・食料環境を見据えて、IT技術、IoT導入などを勉強しながら、若い世代が責任を持って取り組んでいる」と話す。

同社は2023年に設立70周年を迎える。ここを当面の目標に着々手を打っている。


本格発売した柑橘水洗装置「CW315」

アグリベース四万十
イチゴの栽培に
点滴灌水育苗ポット発売

㈱アグリベース四万十（岡崎修社長・高知市朝倉己3866の2）はリーズナブルな価格ながら灌水の均一性や高耐久性など品質に優れた点滴灌水用チューブ「四万十チューブ」を販売し好評を博しているが、このほど、イチゴ育苗用の点滴灌水育苗ポット「タニシポット」の販売を開始した。

点滴灌水水路に根に均一に灌水する方式を採用した育苗トレイで、炭疽病や各種病害虫の感染を防ぐ効果もあるという。

ポット内には水が下まで流れて吸収されるように設計された溝「タニシライン」がついており、水を与える時間を短縮する。排水は4方向排水。点滴ホースを固定する専用ポットクリップがありホースの離脱を防げる。

また点滴仕切りなど均一に散水する設計が施されている。底面灌水トレイと使用することもできる。カップの形はA型からE型まで5種類あり、24穴タイプや32穴タイプなどがある。

価格は24穴タイプが税別900円、32穴タイプが同1000円。

なお点滴灌水は非常に緩やかなペースで均一に広い面積を同時に灌水できるのが特徴で、作物周辺に水がゆっくり浸透し急激な土壌変化が防げるとともに水が少量で済み節水につながる。労力も軽減されることから愛用者が広がっており、同社では関連商品を豊富にそろえている。

問い合わせは同社（☎0888・855・3126）へ。

点滴灌水育苗ポット「タニシポット」

家庭菜園用のオクラ
花苗ジギタリス2品種も
サカタのタネ発表

㈱サカタのタネ（神奈川県横浜市都筑区仲町台2の7の1）は、家庭菜園においてのオクラの需要の高まりに応え、プロに園芸相談できるコンシェルジュサービス付き家庭菜園用野菜苗「おうち野菜」シリーズにオクラ「満天」を加え、来年4月下旬から発売する。

「おうち野菜」シリーズは病気に強くて作りやすく、収量が多く、さらに食味も良い品種を選抜した、家庭菜園初心者向けの野菜苗シリーズ。電話やメール、アプリで園芸のプロに栽培時の疑問を相談でき、現在夏野菜の定番品目であるトマトやナス、キュウリなどをラインアップ。

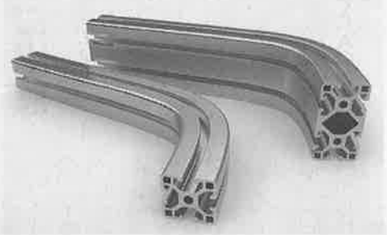
今回シリーズに加えるオクラ「満天」は、一般的な品種に比べて草丈が低く、ベランダなど限られたスペースで栽培しやすいという点が特徴。

また、収穫量も多いため、家庭菜園で長く楽しむことができる。オクラムセンチンが豊富に含まれていることなどから、夏バテ対策野菜としてテレビや雑誌などで注目を集めている。それに伴い、家庭菜園においてオクラ需要も高まっており（同社調べ）、今回商品化に至った。

オクラ「満天」は全国の種苗店、園芸店、ホームセンターなどで4月から順次販売を開始する。

サカタのタネ発表

各種パーツが好評
トランク
アルミ押し出し材も低価格で

㈲トランク（中村威史社長・愛媛県伊予郡松前町神崎194の3）は韓国製省力化機器の輸入販売事業を手がけ、油圧シリンダや油圧パワーパッケージ、排ガス規制対応汎用ディーゼルエンジンなどの産業用パーツ、アルミダイキャスト鋳物などの精密鋳造パーツを紹介し好評を博している。

またこのほど、新たに韓国企業とタイアップしアルミ材の押し出し成形加工も始めた。フレームやターンバックル、ボルト多彩な自動車用途など型ユニバーサルに対応できる製造ラインを構築。